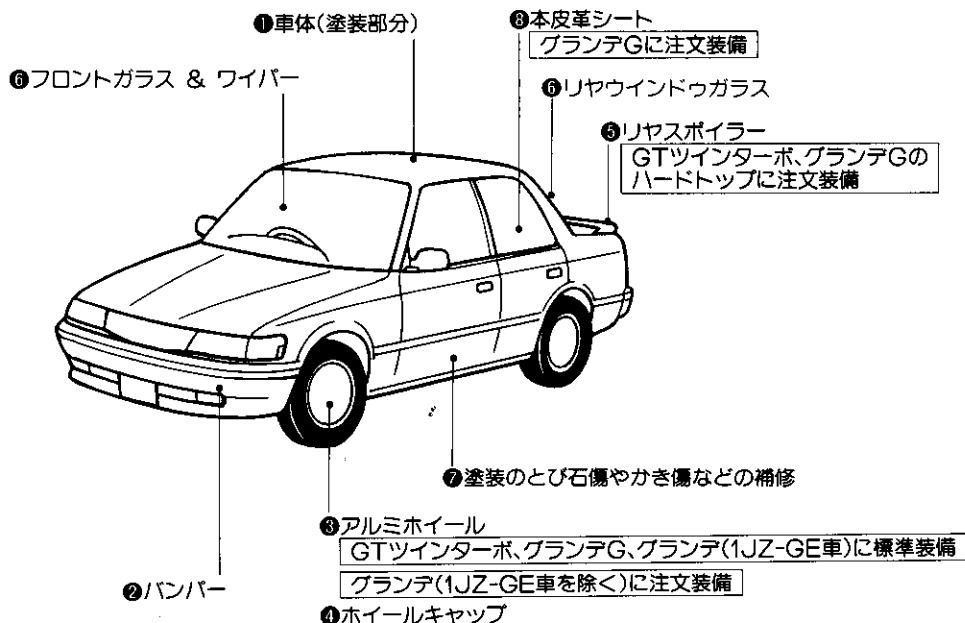


車の手入れ.....134
 経済運転のコツ.....138
 寒冷地での取り扱い.....139
 タイヤチェーン.....141

車の手入れ



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 次のような場合は必ず洗車してください。

- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
- ほこり、泥などで著しくよごれたとき。

2. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。

- 海岸
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。

①車体(塗装部分)の手入れ

1. 車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。
2. 鳥のふん、虫の死がいなどは、トヨタ純正むしクリンを使用して除去してください。

▶洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 次に、車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、トヨタ純正カーシャンプーまたは水アカクリーナーを使用します。



ちよつと一言

1. コンパウンド(みがき粉)入りワックスや、液状ワックスは洗剤として使用しないでください。
2. エンジンオイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。



注意!

1. エンジンルーム内の電気製品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。
2. 下回りを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にケガをすおそれがあります。
3. カーシャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。
4. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。とくに、濃彩色車やメタリック車はスリ傷がめだちやすくなります。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

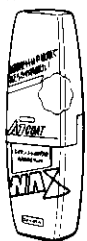
1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。

<固形タイプ>



- A1ハード タフ カルナバ
- A1ハード カルナバ
- A1ハード トラッド
- A1ソフト タフ ホワイト
- A1ソフト ホワイト
- A1ソフト メタリック & マイカ

<液体タイプ>



- A1コートセット
- A1コート ロングライフ
- A1イーザー(リキッド) オールラウンド
- A1イーザー(リキッド) ホワイト
- A1クリーナーワックス(リキッド) オールラウンド
- A1クリーナーワックス(リキッド) ホワイト

<ムースタイプ>



- A1イーザー(ムース) オールラウンド
- A1イーザー(ムース) ホワイト

②バンパーの手入れ

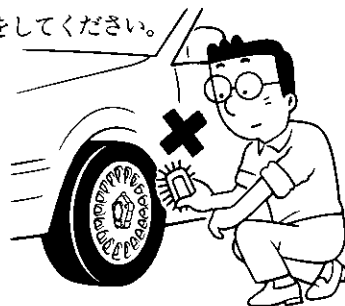
1. 車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



エンジンオイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

③アルミホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。よごれがひどく落ちにくいときは、トヨタ純正アルミホイールクリーナーをお使いください。
2. ワイヤブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。



1. 泥の付着、海水、凍結防止剤などにより汚染されると、腐食するおそれがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。
2. コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
3. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

④ホイールキャップの手入れ

セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗装部に傷がつきます。



ピッチクリーナーなどが樹脂部分に付着すると、破損の原因となりますので十分注意してください。

⑤スポイラーの手入れ

- 1.車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスかけをします。
- 2.たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



自動洗車機を使用する場合は、必ず前側から洗車してください。洗車機によっては、リヤスポイラーがひっかかり洗車できないことがあります。十分注意してください。

⑥ウインドウガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、次のトヨタ純正ガラスクリーナーで清掃してください。



- ガラスクリーナーコンパウンド
- ガラスクリーナーリキッド
- ガラスクリーナーエアゾール

なお、ワイパーゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



リヤウインドウガラス(室内側)の清掃は、断線を防止するため、湿った布で熱線にそって、軽くふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、リヤウインドウデフォグガー(曇り取り)が作動しなくなるおそれがあります。

⑦塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチアップペイントまたはタッチアップテープで補修してください。



⑧本皮革シートの手入れ

本皮革シートは手入れ方法を誤ると、変色、しみなどが生じるおそれがあります。次の次項を守って正しい手入れをしてください。

▶よごれの取り方

- 1.ウール用中性洗剤の5%水溶液を、ガーゼなどのやわらかい布に含ませ、軽くふき取ってください。
- 2.真水にひたした布を固くしぼって、洗剤をきれいにふき取ってください。

▶乾燥

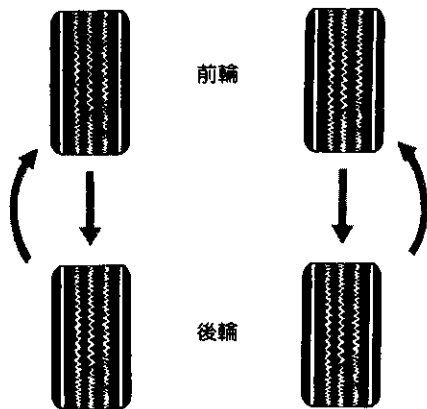
- 1.水にぬれたときや、水でふいたあとは、早めに乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- 2.直射日光をさけ、風通しのよい日陰で乾燥させてください。




- 1.表面をナイロンブラシ、合成繊維類で強くこすったりすると傷がつくおそれがあります。
- 2.ベンジン、アルコール、ガソリンなどの有機溶剤、酸またはアルカリ性の溶液を使用すると、表面が変色するおそれがあります。
- 3.本皮革シートのよごれは、カビなどの発生原因となります。油よごれなどには十分注意し、常に清潔に保つよう心がけてください。
- 4.直射日光に長時間さらすと、表面が硬くなり縮むことがあります。とくにリヤシート背もたれの上端部は直射日光にさらされ高温になりやすいため、駐車する場合は、できるだけ日よけに心がけてください。
- 5.夏期など室内が高温になる状態のときに、シート上にビニール類をおいておきますと、ビニールが変質してシートに付着するおそれがあります。

■タイヤ位置交換

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を伸ばすために10,000kmごとに下図にしたがって位置交換を行うことをおすすめします。




 タイヤに付着したよごれを落とす場合は、トヨタ純正タイヤクリーナーで清掃してください。

ちよつと言

■エンジンオイルについて

エンジンオイルの量をときどき点検してください。なお、高速走行(80km/h以上の走行)を行う前には、必ず点検してください。(点検方法については「整備手帳」を参照してください。)

 エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

ちよつと言

■リヤシートの取りはずし方

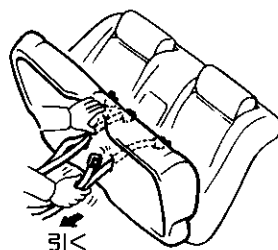
シートカバーの交換などでリヤシートを取りはずすときは、次の要領で行ってください。

▶シートクッションのはずし方


1. シート足元にあるレバー(2カ所)を引いたまま、シート前部を持ち上げます。



2. シートクッションを手でさえながらシートベルトを下へ引き抜きます。



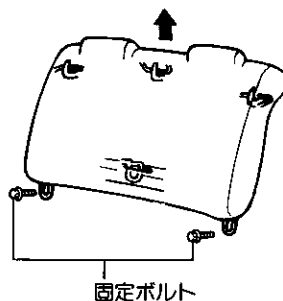
3. シート全体を手前に引きフックをはずします。

 レバーを引かずにシートを持ち上げると、シート固定具を損傷するおそれがあります。

注意!

▶背もたれのはずし方

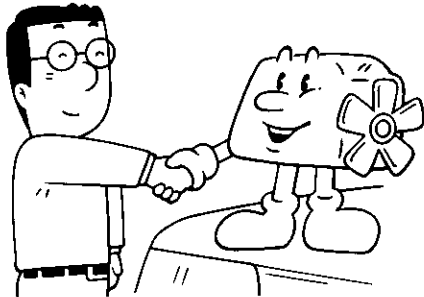
背もたれ裏側の固定ボルト(2本)をはずし、背もたれを持ち上げます。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

経済運転のコツ

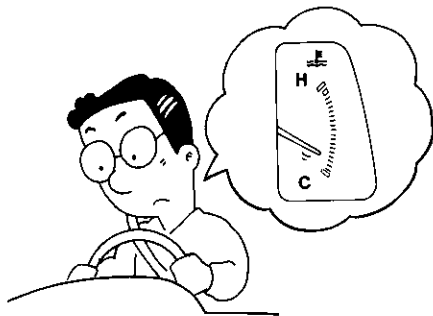
エンジンをいたわる気持ちで、
長持ちの秘訣



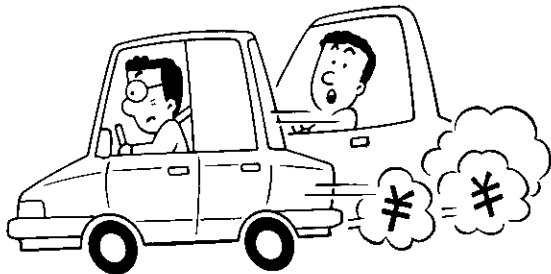
(新車時はとくに)ひかえめな運転をしてください。

暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針(または表示)が動き出すまでになればOKです。



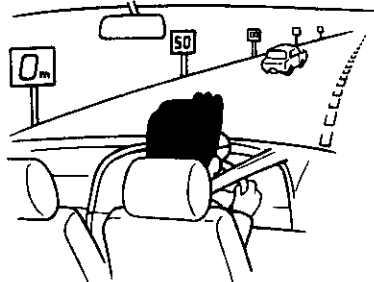
不必要な高速運転は燃料のムダ使い



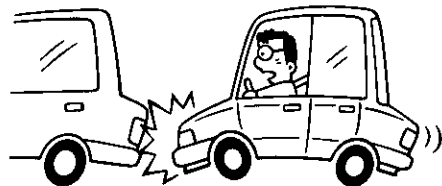
100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7倍よけいに多くかかります。

高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車間距離はゆったりとって、
安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をとめない
不経済



クラッチの適正で確実な操作は、
車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることになります。
2. 走行中は、クラッチペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー(1速)ギヤを使用してください。セカンド(2速)ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインタードライブをするために

1. タイヤチェーンの準備

2. 冬用タイヤの装着

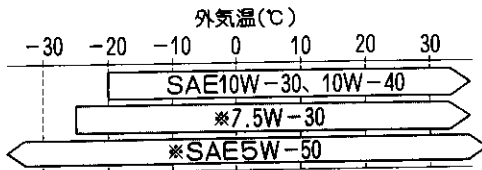
冬用タイヤに取り替えるときは、4輪とも交換します。

3. 冷却水の濃度を点検してください。(寒冷時は、トヨタ純正ロングライフクーラントの濃度を50%にします。)

4. ウォッシャー液の濃度を50%以上にあげます。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10°C
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20°C
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50°C以下

5. エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



*極寒時は7.5W-30、5W-50をおすすめします。

6. 寒冷地では冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。

また、水分除去剤にはトヨタ純正ウォーターカットを使用してください

7. 凍結防止用ワイパーブレードの装着(降雪地のみ)

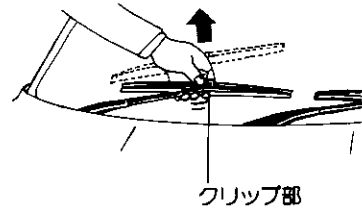
必ずトヨタ純正品を使用してください。


8. ワイパーの切り替え

フルコンシールド式ワイパーは、フロントガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷するおそれがありますので、次の〈切り替え方法〉を参照してフルコンシールド式からセミコンシールド式にしてご使用ください。

〈切り替え方法〉

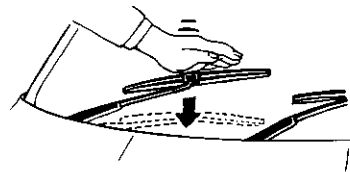
1. フルコンシールド式からセミコンシールド式にするときは、ワイパーアームとブレードのクリップ部を持って引き上げます。






ブレードだけを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがありますので、必ずクリップ部を持って引き上げてください。
ちよつと言 さい。

2. セミコンシールド式からフルコンシールド式にもどすときは、クリップ上部を手で押します。





フルコンシールドの状態ではワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまると自動的にフルコンシールドからセミコンシールドに切り替わる構造になっていますが雪のたまりかたによっては切り替わらないことがありますので上記の方法で切り替えてください。

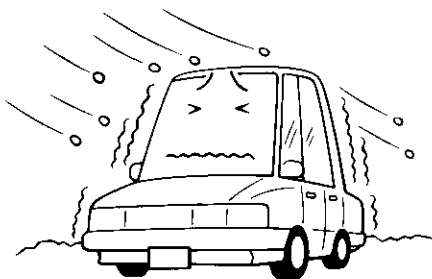
車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

走行前の点検(運行前点検)

寒冷時には、次の項目を運行前点検のときに実施してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時にアクセルペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロントウィンドウの氷雪を除去する際には、ワイパーゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

エンジンの冷えすぎを防ぐには

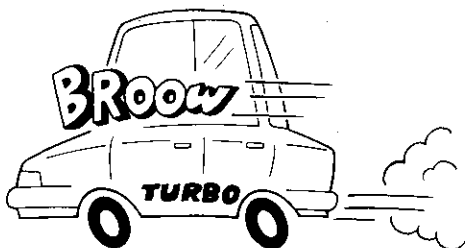


1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、ボンネット側を風下にしてください。

ドアの凍結時の処置

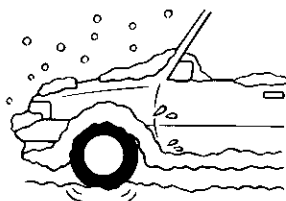
ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、あとで水分を十分ふき取ってください。

エンジン始動直後に、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。



雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなることがあります。

ときどき異常のないことを確認してください。



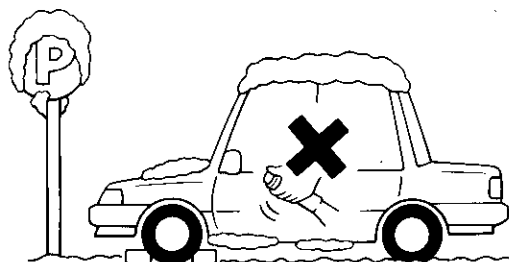
アクセルペダル凍結防止のため、靴に付着した雪を乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

寒冷時はパーキング(駐車)ブレーキをかけておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング(駐車)ブレーキはかけないでください。

1. チェンジレバーの位置をマニュアルトランスミッション車はロー(1速)またはリバース(後退)、オートマチックトランスミッション車はPにします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止めをしてください。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

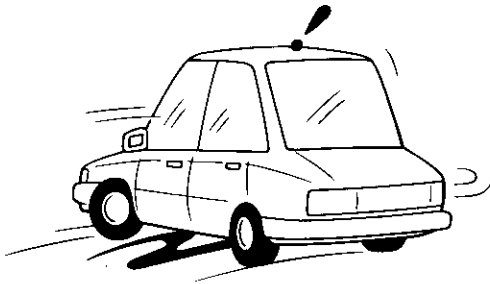
寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

ぬれた路面、氷雪路面、凍結路面ではスリップに注意



ひかえめな速度で走り、氷雪路面、凍結路面では、冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。

タイヤチェーン



ちょっと一言

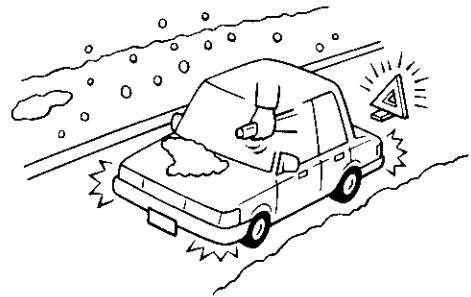
1. タイヤチェーンは後2輪に取りつけます。
2. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
3. タイヤチェーンはタイヤサイズにあったトヨタ純正品（下表指定サイズのもの）を使用してください。

タイヤサイズ	指定サイズ(JIS表示)
185/70R14 87S	56190B
185/70R14 87H	
195/65R15 90H	45102A
195/70R14 90S	46192A
205/60R15 91H	
205/60R15 89H	

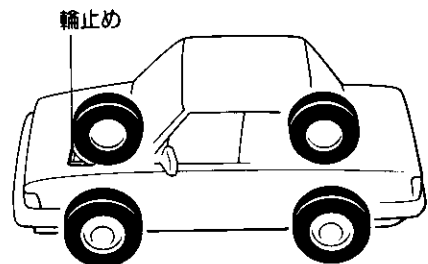
205/55R16 88Vタイヤを装着されているかたはトヨタ販売店にご相談ください。

■取りつけ方

1. 交通のじまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板(または停止表示灯)を使用します。
3. パーキング(駐車)ブレーキをかけます。

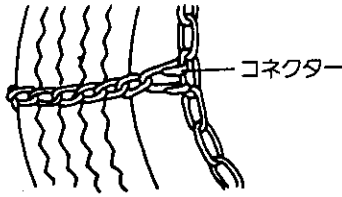


4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前側に、輪止め(搭載工具に含まれています)をします。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤチェーン

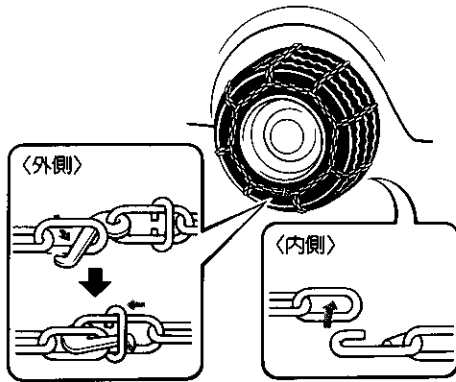
6. 後輪をジャッキアップします。□121ページの「ジャッキ」を参照してください。
7. コネクターの折り曲げが外になるようにチェーンをかぶせます。



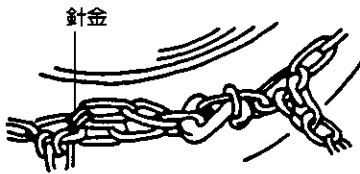
8. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。



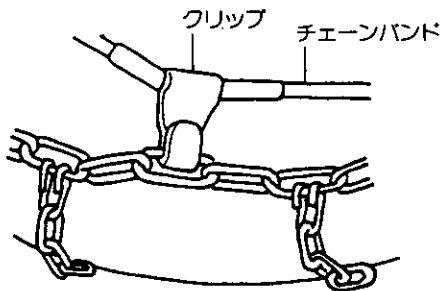
内側のフックはチェーンのいちばん端と連結してください。



9. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するため下図のように針金で結びます。



10. チェーンバンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



11. ジャッキをおろし、輪止めをはずします。

12. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。



ちょっと一言

1. ホイールキャップ付き車の場合、ホイールキャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤチェーンを装着する場合にはホイールキャップをはずしてください。
2. アルミホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがあります。

■取りはずし方

1. チェーンバンドをはずし、針金を取り、フックは外側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



注意!

1. タイヤチェーン購入時に一度装着して、長すぎる場合は、タイヤサイズにあうよう切ってください。
2. タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h以下で走行してください。
3. 雪道、凍結路以外でのタイヤチェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
4. 走行中タイヤチェーンが切れたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますので、ただちに処置してください。
5. 前輪にはタイヤチェーンを装着することはできません。